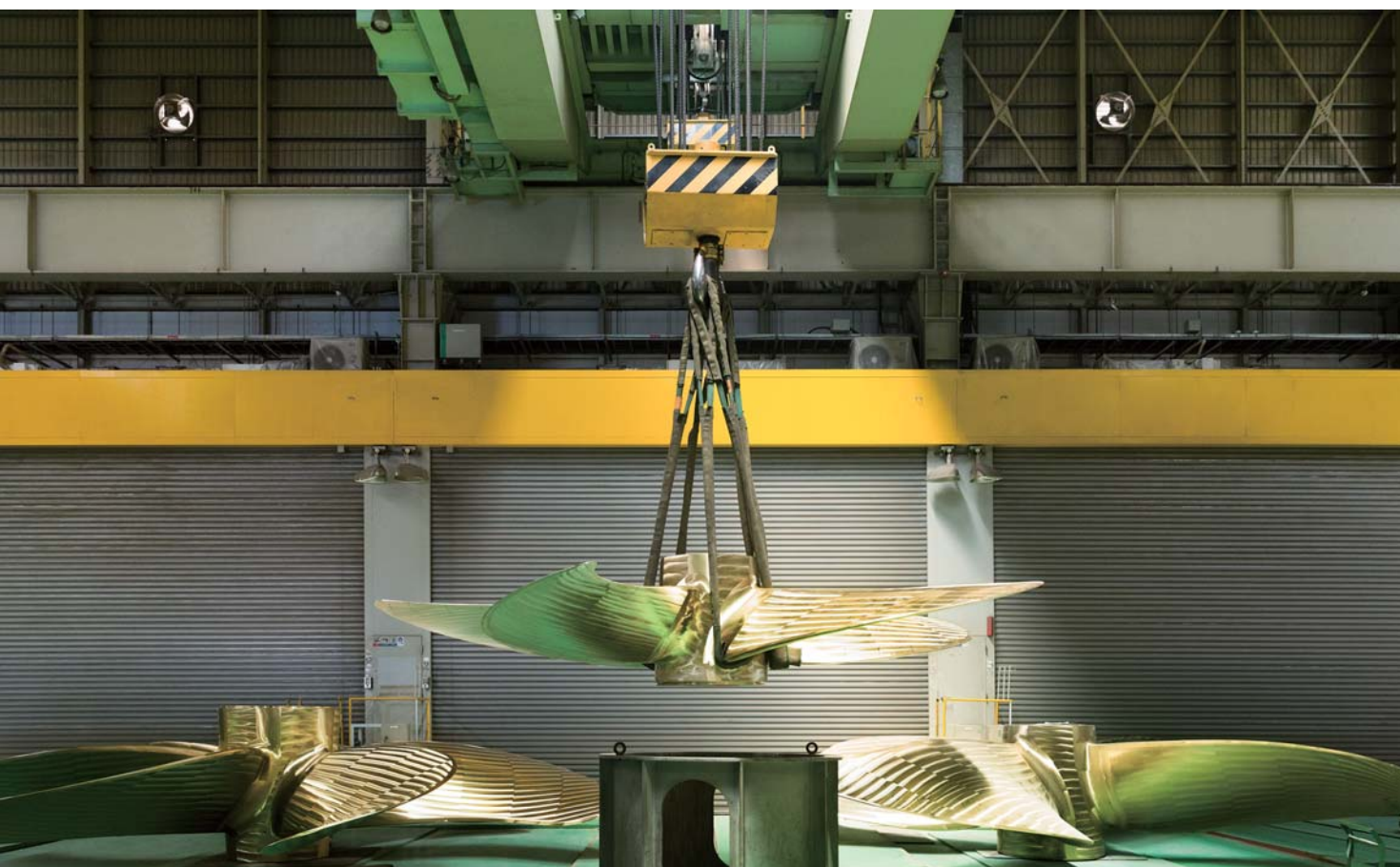


Propelling

Issue 5



Nakashima People Vol.5

金島 史典 Senior Director, Sales and Marketing, Nakashima Asia Pacific

Propelling は、陽のあたらぬ船底でその一生を送るプロペラが秘めるメッセージに光をあてて、世界の船そして船とともにある世界を未来へと一歩進める岡山発・日本発のかわらばん

ナカシマのアジアにおけるビジネス展開の要、シンガポールの現地法人NAPACを、事実上束ねる金島氏。「Kanashima」の名刺はしばしば「Nakashima」と読み間違えられるが、「説明が面倒なので最近ではあえて訂正しません」と笑う。だがそれは、アジアでは自分がまさにナカシマの顔として仕事をしているのだという、責任感と自負の表れなのかもしれない。

東南アジア諸国の新たな市場を開拓し続ける上で金島氏が身に付けた「技」、そしてアジアのビジネス展開にかけるその思いを聞いた。

Q 世界に認められるナカシマの魅力とは？

A 看板職人だった私の父は、社用車の側面のような不規則な形状のものを含め、与えられたスペースに必要な文字や絵柄を、経験と勘に基づいてピタリとバランスよく

描き込んでいました。私は子供心にそんな父が誇らしく、自分も将来、何か人にはない「技」を身に付けて仕事したいと考えるようになったんです。

ただ、父のいた業界では、CADや印刷技術などの発達により、いまや職人技は必要とされなくなってきている。いや、これは看板業界だけの話ではありませんよね。

そうした中でナカシマは、一方では最先端のスーパーコンピュータや加工機器に惜しみなく投資しつつ、一方では仕上げの「職人技」も、90年以上にわたり守り、生かし続けています。熟練した手だからこそ感じ取れる、プロペラ表面の100分の1ミリの凹凸が生み出す「違い」を、決して軽視しないのです。多くのメーカーが生産の効率化を優先してやめてしまった一品受注生産もしくり、周りに流されることなく、大切なことは淡々とやり続ける。それがナカシマの魅力につながっていると思います。

船の性能への要求が
厳しくなればなるほど
ナカシマが提供する
品質は際立つ

金島 史典



Q ナカシマで培った仕事の「技」とは？

A 私が扱っているのは、足繁く通う熱意だけで話を前に進められるような案件ではなく、かといってそこに特別な「奥義」みたいなものがあるわけでもない。

私は、とにかく先方の話を徹底的に聞いて、かりに問題が会社として対応できない分野のものであれば、よそと連携してでも可能なかぎり解決に近づけるよう努力しています。

こうしたことの積み重ねで声がかかるようになり、いつの間にかビジネスに結びついてきました。

あえていうならば「売らないで売る」——良質なものを提供することは大前提ですが、これが私なりの市場開拓の「技」なのかもしれません。

Q ナカシマにとって東南アジア市場とは？

A どの国も若い世代が多くて活気にあふれ、これから伸びるエネルギーがあります。それは人の流れ、ものの流れがますます活発になるということ、そしてほとんどが島国や半島の国々ですから、とりわけ海運の重要性が高まる地域といえます。ナカシマはその海運を、資源にも環境にも配慮しつつ、結果的にコストダウンにもつながる、船のライフサイクルを見通したトータル・ソリューションで支える力を持っている。わが社がこの地域で果たしうる役割は、経済にとどまらずとても大きいものがあると思います。

発展の未来が見えている今こそ、目先の価格よりもっと重視すべきことがある——それをアジアの人たちに知ってもらうことも、自分の大事な仕事だと考えています。

Q 100周年の先の金島さんは？

A ナカシマの製品を知らないお客様がいるところで、新しいビジネスを創りだす。私はそこに醍醐味を感じて、これからもずっとやり続けるつもりでいます。10年後には、東南アジアだけでなく、南米やアフリカあたりまで足を伸ばしているかもしれませんね。

幸い、地上や空中のモビリティがどんなに発達しても、大量のモノを効率的に運べる海運が、それらにとって代わられることはない。SOx排出規制など、船の性能への要求が厳しくなればなるほど、ナカシマが提供する品質は際立ち、私の仕事は忙しくなるはずです。■

ナカシマの美意識

クジラにも優しいプロペラ

ナカシマが自社製品で追い求める環境性能を、中島基善社長はこう表現した。プロペラを極めたとき、巨大タンカーはクジラとともに海の生態系の一員となる——目には見えづらい「違い」にこだわり、未来を見通す美意識と技術をもって、ナカシマは新しい「世界基準」を生み出そうとしている。



シリーズ寄稿：日本ならではのイノベーション もうひとつの「モビリティ革命」

交通・運輸にかかわる産業分野、そしてそれらを利用する私たちの生活に、「モビリティ革命」と呼ばれる大きな変化の波が訪れている。人工知能など先端テクノロジーを搭載した多彩なモビリティ・ツールの開発に、自動車関連企業はもちろん、IT・AI企業、サービスロボット会社等が参入、移動機器の知能化/IOT化、シェアリングの拡大が加速し、新時代のモビリティ・エコシステムの創出・革新が始まっているのだ。

例えば搭乗型の超小型ロボット・モビリティのような、地形や利用者、地域の特性などの多様なニーズに細やかに応えられる先進モビリティ・ツールは、地方の高齢者や障害者を含む人々のモビリティ（移動可能性）の飛躍的な向上、そして再生可能エネルギーの活用などによる環境負荷の最小化にも寄与することが期待されており、私たちの人生の質(QOL)・社会の質(QOS)に大きく貢献する創造革新となりうる。

しかし一方、自然の循環から切り離されることで高度な発達をとげてきた人類のモビリティの延長線上にある「革命」は、人間中

心的な西洋文化ベースの現代文明の本流でもある。ビッグデータを駆使するAIが移動機器の安全・快適を管理する……モビリティ革命が描く「夢」は、中心にいたはずの人間すら、いつの間にか縁へ追いやられていくという矛盾を孕んだ、この文明の未来図とも見ることができよう。

だが、モビリティ革命にはもうひとつ別の可能性がある。

先端モビリティは、人・経済・自然の分断を修復し、全てが一体となった生態系の循環を生み出す、いわば「有機的」インフラの創造へとつながりうる——こうした、今の延長線上にない未来を創り出す変化こそが、「革命」と呼ぶにふさわしいのではないだろうか。

人間を生態系の外に置き、自然をよりよく管理・支配することをイノベーションととらえてきた西洋文明とは対照的に、自らを自然の一部ととらえる日本人の本来の文明は、人工物もまた生態系の一員として、それを使う人間とともに自然の循環を支え育むようなイノベーションを積み重ねてきた。

「自然と共にある人」がその智慧・文化を生かして、テクノロジーを使いこなし、最新のモビリティが森羅万象の循環の中に溶け込む、そんな未来をこそ夢みたい。■

NAKASHIMA PROPELLER

売り手よし、買い手よし、世界よし

日本の造船業の一大中心地・瀬戸内地方に本社を構えるナカシマプロペラは、船舶用プロペラでトップレベルのシェアを誇る船舶推進機器メーカーです。

漁船用プロペラを造る鋳物工場に始まり、つねに安心・安全・快適をお届けするために、「プロペラにできること」を追求し続けてきたその歴史は、2026年に創業100周年を迎えます。

推進機能の中心を担うプロペラから船全体を見通すと、その最適な姿が見えてくる——そんな新しい視点で、ナカシマは船のライフサイクルに寄り添うトータルなサービスを提供し、環境負荷の低減にもつながる低燃費化の実現など、業界を越えて世界に貢献していきます。

■ ナカシマブランドとは？

船の一生に寄り添い、“推進性能”を最適化するスペシャリスト

日本品質を生む設計力・製造力

高性能コンピューター（5000コア大規模プロセッサ）が、100万基にのぼる世界屈指の生産実績の中で蓄積された膨大なデータをもとにはじきだす設計図。最先端のテクノロジーと熟練した職人技を併せ持つナカシマ独自の製造力が、その設計形状を忠実に再現、高効率・低振動・低騒音の日本品質を提供しています。

一品受注生産 “100の船があれば100通りのプロペラがある”

プロペラは、推進性能の最適化の要。メーカー本位の効率化を排して、一品受注生産にこだわり、一貫生産体制のもと、あらゆる船に対して「その一隻」に最適なプロペラを設計・製造しています。

最新鋭機器の利用を高度化

NC加工では独自のスマートテクノロジーにより、高効率プロペラの複雑な三次元曲面の形状定義も可能に。前・後縁部のエッジ加工など、加工機による翼面加工領域を広げて、特殊な職人技が必要なプロセスを簡素化し、迅速かつバラつきのない製造を実現しています。

究極の滑らかさ

人間の手は、物体表面のなめらかさを判定する理想の検査装置です。最高の訓練を受けたナカシマの職人は、翼表面をゆっくりと撫でるだけで、1/100mmの乱れを感知する「匠の技」を身に付けています。最新のCFD計算でも正確な予測がむずかしい微妙なキャビテーションや鳴音の発生につながる不具合も決して見逃しません。

どんな時も、どんな場所でも

プロペラ損傷時には、世界的ネットワークを活かして、修理エンジニアの派遣など迅速に対応。燃費状態や航路、経年劣化など諸条件を考慮し、エッジカットや省エネ研磨、レトロフィットの提案なども行い、船の「一生」を通じてきめ細かくサポートします。

■ サービスについて

船舶用プロペラ分野・推進システム分野におけるFPP、CPP、スラスト、船尾まわり省エネ付加物、新素材（CFRP）プロペラのデザインと製造

損傷プロペラの補修、エッジカット（エッジ修正含む）、省エネ研磨、実運航・就航後の推進機器のサポート、低燃費船を実現する推進性能の最適化など

対応船種：メガコンテナ船、VLCC、VLOC、VLGC、LNG/LPG船、PCC、客船、作業船、内航船、調査船、バトロール船

対応船級：全主要船級（アイスクラス対応可）



■ 展示会情報

SMM HAMBURG [ドイツ] …2018年9月4日～7日

SEATRADE MARITIME MIDDLE EAST [UAE] …2018年10月29日～31日

METS TRADE [オランダ] …2018年11月13日～15日

INTERNATIONAL WORKBOAT SHOW [アメリカ] …2018年11月28日～30日

ナカシマプロペラ 株式会社

〒709-0625

岡山県岡山市東区上道北方 688-1

086-279-5111

npcwebmaster@nakashima.co.jp

<https://propelling.jp/jp>

Japan・Singapore・Vietnam・Philippines・China

Korea・Taiwan・USA・Brazil・Turkey・UK・Namibia・UAE

Propelling 第5号 2018年7月31日

企画・制作 株式会社八百万 I N G カンパニー

写真 太田拓実[P1,P4], 富岡誠[P2]

Copyright 2018 NAKASHIMA PROPELLER Co., Ltd. All Rights Reserved.